

## 神奈川県初記録のタケウチケブカミバエとその虫こぶについて

中村静男・浜口哲一

### Shizuo Nakamura and Tetsuichi Hamaguchi: First Record of *Paratephritis takeuchii* and Its Gall from Kanagawa Prefecture

#### はじめに

虫こぶ（ゴール）は、大変興味深い自然観察のテーマであるが、本県ではそれに関する記録が乏しいように思われる。たとえば、県内のハエ目の記録をまとめた鈴木ほか（2004）においても、タマバエ科がわずかに2種しか取り上げられていないなど、虫こぶ形成昆虫に関する情報が少ない。筆者等は、ヤブレガサに形成されたタケウチケブカミバエによる虫こぶと羽化成虫を観察する機会があったので、県内初記録種として報告する。

なお、成虫の同定をお願いした神奈川昆虫談話会の脇一郎氏、日頃から虫こぶの観察についてご指導を頂いている薄葉重氏にお礼申し上げる。

#### 発見の状況

筆者の一人、中村は、2005年12月11日に、神奈川県湯河原町宮下の宮下林道の標高約300mの落葉広葉樹林の林縁で、キク科の多年草であるヤブレガサ

*Syneilesis palmata* に形成された虫こぶを発見した。現地には5株のヤブレガサが生えていたが、虫こぶは1株だけに認められた。

#### 虫こぶの形状と解剖所見

虫こぶは、茎の先端から葉柄基部にかけてが紡錘状に肥大し、長さ50mm、最大直径28mmの大型のものであった（図1）。こうした外見の特徴と寄主植物から、薄葉（2003）の記載と写真によって、虫こぶの名称はヤブレガサキフクレズイフシと判断した。虫こぶの表面は平滑で、緑色から黄緑色を示していた。

12月11日の採集後、14日朝まで冷蔵庫で保管しておき、同日午後に解剖を行った。縦に切開したところ、表皮は非常に硬かった。内部は黄白色の海绵状で、中央部に長さ15～17mm、直径7～10mmの虫えい室があり、その中に12個の蛹が認められた（図2）。蛹の大きさは、長さ5.5mm、直径2mmであった。内10個



図1. ヤブレガサキフクレズイフシの外見.



図2. 虫こぶの切断面.

については既に羽化を終えており、片面の1箇所に直径2mmくらいの脱出口を認めた。

### 羽化の観察と成虫の同定

解剖直後に、1個の蛹が羽化を開始した。観察を続けたところ、後ろ向きに蛹から脱出し(図3)、1時間後には飛行を始めた(図4, 5)。また、別の1個も羽化したが、羽が十分伸びずに歩くことしかできず、12月22日に死亡を確認した。

第一の個体は標本とし、脇一郎氏に同定をお願いした結果、神奈川県初記録のタケウチケブカミバエ *Paratephritis takeuchii* Ito, 1950であることをご教示頂いた。なお、この標本は平塚市博物館に収蔵した(標本番号 HCM-52-28893)。ヤブレガサクキフクレズイムシの形成者がタケウチケブカミバエであることは、薄葉(2003)にも記載されており、本種が今回観察した虫こぶの寄生者ではなく、形成者であることは確実であろう。

### 同じ虫こぶの観察例

今回報告した、ヤブレガサクキフクレズイムシと同じものと思われる虫こぶを、下記でも観察している。こうした観察からすると、本種は県内に広く分布している可能性があるため、今後注意をお願いしたい。

1. 2005年6月5日。伊勢原市聖峰。山地の自然林。虫こぶからは形成者は発見できなかった。液浸標本として保存。

2. 2005年10月13日。小田原市入生田。山地の沢沿いの自然林。解剖したところ、4個の蛹を認めた。液浸標本として保存。

### 引用文献

- 鈴木 裕・脇 一郎・久保浩一, 2004. ハエ目. 神奈川県昆虫誌Ⅲ, pp.845-906. 神奈川県昆虫談話会, 神奈川県.  
薄葉 重, 2003. 虫こぶハンドブック. 82pp. 文一総合出版, 東京.

(中村: 神奈川県植物誌調査会, 浜口: 平塚市博物館)



図3. 成虫の羽化.



図4. 成虫の上面.



図5. 成虫の下面.